

水辺での

事故を防ぐ

熊本市消防局の現状や、水辺での事故防止について、水難救助に特化した特別救助隊での活動経験をもつ熊本市消防局益城西原消防署救急救助小隊の恒松幸裕小隊長に話を伺いました。



恒松幸裕小隊長

目の前で人が溺れていたら、すぐにでも水に入って助けたいくなりますが、二次災害を防ぐため、水の中に入らず助けることを第一に考えましょう。

熊本市消防局の現状

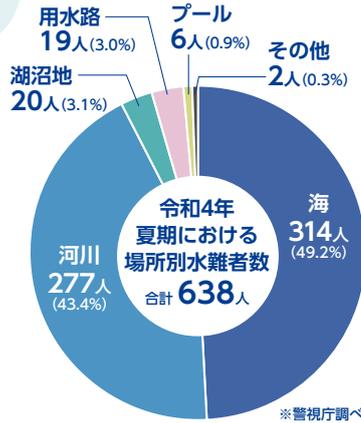
●川遊び中に発生した事故

令和4年	令和3年	令和2年	令和元年
0件	2件	2件	2件

うち1件男の子の死亡事故が発生(遊んでいる最中、川に誤って転落)

●川遊び中の事故の内訳

- 想像以上に川の流が速く元の場所に戻れなくなった
- 川の近くで遊んでいて、誤って転落してしまった
- ボートから転落してしまった

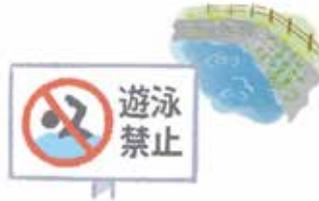


水辺で気をつけること

point

1 危険な場所には近づかない！ 近づかせない！

- 転落の恐れがある場所 (滑りやすい藻が茂っている場所など)
 - 急に深くなっている場所
 - 流れが速い場所
 - 「遊泳禁止」など案内板がある場所
- ※赤井のそうめん滝は遊泳禁止です！



point

2 的確な状況判断をする

天気が悪い時は増水し、川の流が速くなります。晴れていても上流で雨が降った場合は、急に水位が上がり流が速くなります。気象状況を把握し、状況を判断しましょう。

また、体調が悪い時、飲酒している時は水辺で遊ばないようにしましょう。
※川の情報は国土交通省の「川の防災情報」で確認できます。



point

3 ライフジャケットを活用する

小さい子ども、泳ぎが不得意な人はライフジャケットを着用することを心掛けましょう。



溺れている人を発見したら

まずは4つのことをできるだけ早く

- 1 落ち着いて冷静になる
- 2 溺れた人に声を掛けて落ち着かせる
- 3 助けを呼んで多くの人を集める
- 4 119番通報する

助ける方法 (陸上でできること)

- ロープ、長い棒、つなげた洋服などで岸の浅いところに誘導する
- 浮力のある物を投げてつかまらせる
浮き輪、空のペットボトル(2リットル)、ふたを閉めたクーラーボックスなど



これらができない場合

- つかまることができそうな障害物があった場合は、声を掛けて誘導
- 溺れた人に声を掛け続け、目を離さない

